

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	熊本県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	芦北町立湯浦小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	12
児童数	28	31	35	40	34	39	2	209	

研究の概要

1. 研究主題(及び主題設定の趣旨)

<p>テーマ:【基礎・基本を徹底し「生きる力」を育む教育活動の展開】 一人一人に確かな学力をつけるきめ細かな指導をめざして</p> <p>主題設定の趣旨 生きる力を育成することを基本的ねらいとした学習指導要領の精神を踏まえ、確かな学力の向上が望まれている。 本校児童は、素直で人懐っこく、明るい児童が多いが、自ら考えて行動する主体性やたくましさ、根気強さにかける面がある。標準学力検査の結果から見ると本校は、全国平均をわずかに下回っており、特に上位群が少ない状況にある。さらに、児童数の減少から、今年度から全学年一クラスとなり、一クラスの人数が増えた。 以上のようなことから、児童一人一人の確かな学力のためにより一層きめ細かな指導が必要と考えた。</p>
---

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>1・2年...生活科、音楽において合同授業 指導要領の目標が二学年にわたることを基に、多様な興味・関心、活動に対応する必要があると考えたため。</p> <p>3・4年...社会科、総合的な学習の時間、国語において一部少人数指導 より多様化する興味・関心、活動に対応する必要があると考えたため。</p> <p>5・6年...教務による社会科、理科と音楽・家庭科の交換授業による一部教科担任制 教師の専門性を生かすと共に、児童の興味・関心、活動に対応し、教科担任制をとる中学校へのスムーズな移行を計るため。</p> <p>2～6年...算数 全時間 TT、少人数指導(均質二分割、習熟度別) 昨年までの全時間 TT 指導から、さらに児童の実態に応じるため。</p>
---

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	
--------	--

平成 15 年度	<p>テーマ 【基礎・基本を徹底し「生きる力」を育む教育活動の展開】 一人一人に確かな学力をつけるきめ細かな指導をめざして 研究の見通し（仮説） 子ども一人一人の状況を的確に評価し、それに応じて教材、指導方法・指導体制を工夫すれば、子どもは、「確かな学力」を身に付け、生きる力が育まれるだろう。 研究の内容・方法 一部教科担任制、少人数指導、合同授業を实践し、個に応じたきめ細かな指導の可能性を探る。 算数において2年生以上で少人数指導の実施</p>
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 【基礎・基本を徹底し「生きる力」を育む教育活動の展開】 一人一人に確かな学力をつけるきめ細かな指導をめざして 研究の見通し 今年度の取組からより効果的な指導方法・指導体制を追究する。 研究の内容・方法 算数における発展的指導や補充的指導の具体化 他教科での個に応じた指導の具体化</p>
----------------	--

\* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

### (3) 研究推進体制

<p>研究推進委員会 1・2年生...合同学習部 3・4年生...少人数指導部 5・6年生...専門的指導部</p>
--

### 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

#### 1. 研究の成果

全ての児童が複数の教師と接することになり、児童理解が進み、児童の実態に即して、具体的な話し合いを持つことができた。  
専門的指導部では、2学年を見通した系統的指導をすることができ、教科経営上も効果的であった。  
少人数指導をすることで、児童の発言回数が増え、児童の学ぶ構え作りにも有効であった。また習熟に時間がかかる児童にとっては、やる気を持ちつづけることができた。  
算数では、授業中の児童の集中が高まり、4月に実施した標準学力テストの結果で5段階で1であった児童の70%の学ぶ意欲が向上した。高学年においては、新しいものに挑戦していこうとする気持ちが育った。

算数では、みんなが知らない新しい方法を見つけるのがす  
きです。(5月)

■	いつも
■	そうです
■	ときどき
■	そうです
□	ちょっと
□	ちがいます
□	ぜったい
□	ちがいます

算数では、みんなが知らない新しい方法を見つけるのがす  
きです。(1月)

■	いつも
■	そうです
■	ときどき
■	そうです
□	ちょっと
□	ちがいます
□	ぜったい
□	ちがいます

## 2. 今後の課題

交換授業による専門的指導を行うために担任決定後、交換可能な教科等を検討し、時間割を編成するために、取り掛かりに時間がかかること。合同授業を計画する場合、指導要領の目標は二学年共通ではあるものの、教科書では違う内容を取り扱っているために年間指導計画を見直さなければならない。成果を普及するという点では、問題となる。

少人数指導にあたっては、どのような観点、方法で編成し、編成した集団に応じてどのような支援を行えばよいのか、また、どのように評価するのか明らかにしていく必要がある。

### 学力等把握のための学校としての取組

標準学力検査の経年比較  
教育課程実施状況調査質問紙調査や本校独自の質問紙による学ぶ意欲の経年変化

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究授業を町内の学校に公開  
平成16年に研究発表会開催予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T.Tによる指導  
                                  一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                  体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無